

Content validity and utility of a proposed safety management education model for birth assistance in midwifery clinical practice

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/45269

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 28 年 2 月 21 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1127022002

氏 名 岩谷 久美子

論文審査員

主 査(職名) 田淵 紀子 (教授)

副 査(職名) 島田 啓子 (教授)

副 査(職名) 須釜 淳子 (教授)

論文題名 Content validity and utility of a proposed safety management education model for birth assistance in midwifery clinical practice

(助産学実習における分娩介助の安全管理教育モデルの試案と内容妥当性及び活用性)

【論文内容の要旨】

本研究は、助産学生の分娩介助実習において安全管理の教育モデルを試案し、内容妥当性及び活用性を検討することを目的とした。

方法は、分娩介助の安全管理能力を修得する教育モデル試案を、4つのステップから作成した。同意が得られた10名の助産教員に半構成面接を行い、安全管理教育に必要であると語られた内容を抽出した(ステップ1)。その内容とブルームの教育理論を基盤に教育モデル試案を作成した(ステップ2)。次に、中部・近畿エリアの113施設の助産学教員に、教育モデル試案の妥当性について、自記式質問紙調査を郵送法によって個別回答を依頼した。(ステップ3)。その結果、修正を要する意見を参考に、モデル試案を修正して教育モデル ver.1 を作成した(ステップ4)。この教育モデル ver.1 について、助産教員5名を新たに交替して、10名の教員に内容妥当性・活用性を質的に調査した。

結果、教育モデル試案は、抽出された6カテゴリーから構成され、安全管理教育目標、助産師の倫理、適切な報告・連絡・相談、感染防止の4カテゴリーは、コースアウトカム目標に設定し、2カテゴリーは、分娩介助例数を横軸に、安全な知識・技術を含む成長レベルを縦軸とした座標軸で表記した。このモデル試案に対し、102名の有効回答の内88名(86%)が「(一部修正含む)理解できる」と回答した。モデル試案の修正意見を検討し、教育モデル ver.1 を作成した。このモデルに対し、調査協力者10名全員が内容は妥当であり、一部修正が必要も含め活用できるとされ、内容妥当性及び活用性が示唆された。

【審査結果の要旨】

本研究において、分娩介助における安全管理教育の内容を明らかにし、習熟度に沿ったモデルが提示されたことは非常に意義がある。質疑では、モデルの内容妥当性があるとした根拠、到達レベル、教育研究を行う場合の倫理、対象選択の方法などについて質問がなされたが、適切に回答した。今後は、モデル案の中に評価の要素を含め、教育現場で活用していくことで、分娩介助の安全性が高まり、ケアの質向上につながることを期待される。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。